

多様な農泊の取組事例集

(農泊推進のあり方検討会資料)

農林水産省

多様な農泊の取組事例集

- 事例① NPO法人 美しい村・鶴居村観光協会（北海道阿寒郡鶴居村）
[インバウンド受入体制の整備]
- 事例② 余市町観光地域づくり協議会（北海道余市町）
[地域資源の活用]
- 事例③ 花巻農業協同組合（岩手県花巻市）
[JAグループによる農泊推進]
- 事例④ 大館市まるごと体験推進協議会（秋田県大館市）
[地域連携DMOとの連携]
- 事例⑤ 仙北市農山漁村体験推進協議会（秋田県仙北市）
[インバウンド受入体制の整備]
- 事例⑥ 大田原グリーン・ツーリズム推進協議会（栃木県大田原市）
[教育旅行の発展型]
- 事例⑦ （一社）秩父地域おもてなし観光公社（埼玉県秩父市ほか4町）
[地域連携DMO×農泊]
- 事例⑧ 中伊豆農山漁村振興推進協議会（静岡県伊豆市）
[民間企業主導型]
- 事例⑨ 馬瀬地方自然公園づくり委員会（岐阜県下呂市）
[地域DMOとの連携]
- 事例⑩ 中野方農泊推進協議会（岐阜県恵那市）
[地域資源の活用]
- 事例⑪ 相差地域海女文化活性化協議会（三重県鳥羽市）
[渚泊による振興]
- 事例⑫ 美山分散型ホテル協議会（京都府南丹市）
[古民家の活用、泊食分離]
- 事例⑬ 伊根浦地区農泊推進地区協議会（京都府伊根町）
[古民家の活用]
- 事例⑭ 家島諸島都市漁村交流推進協議会（兵庫県姫路市）
[渚泊による離島振興]
- 事例⑮ 明日香交流人口促進協議会（奈良県高市郡明日香村）
[教育旅行の発展型]
- 事例⑯ 紀の里農業協同組合（和歌山県紀の川市）
[JAグループによる農泊推進]
- 事例⑰ 山口秋穂漁泊推進協議会（山口県山口市）
[地域資源（お遍路と車えび養殖）の活用]
- 事例⑱ 人吉球磨グリーンツーリズム推進協議会
（熊本県人吉市ほか4町5村）
[農泊×食]
- 事例⑲ 北海道における広域連携『農村ツーリズム』の取組
[広域連携事例]
- 事例⑳ 九州ツーリズム・コンソーシアム『ムラたび九州』の取組
[広域連携]

NPO法人美しい村・鶴居村観光協会 (事例①：インバウンド受入体制の整備)〔北海道阿寒郡鶴居村〕

- 既存の地域資源である酪農や美しい自然等を活用し、地域経済や地域の活性化に資する農泊を展開。
- 英語HP、英語SNS、Wi-Fi、キャッシュレス決済等、インバウンドを意識した受入を実施。（宿泊の5割がFIT）

【地域の概要】



鶴居村

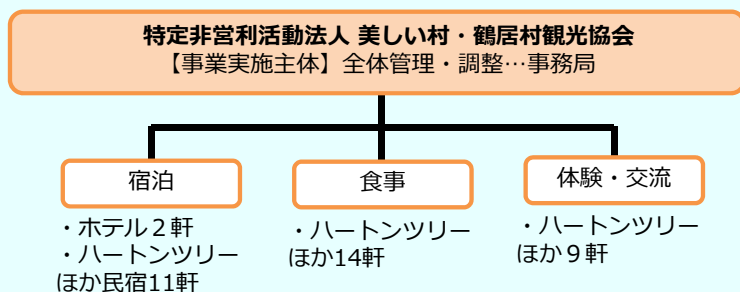
＜地域の特徴＞

- 酪農を主体とした農業が行われており、釧路湿原国立公園を始めとする美しい景観が広がっている。
- 日本の特別天然記念物に指定されているタンチョウヅルの保護活動が行われており、多くのタンチョウヅルが生息する。



タンチョウヅル

【実施体制】



【連携団体】

- ・タンチョウコミュニティ（農泊ガイドの育成、検討会運営）
- ・鶴居村スローライフ実行委員会（農村女性による新商品開発、モニターツアーの実施協力、プロモーションの実施）
- ・ハーブマーシェ/くしろサイクル・ツーリズム推進協議会/鶴居村商工会/釧路川流域町村農産物推進協議会/鶴居村あぐりなつとわーく/くしろ長期滞在ビジネス研究会（取り組みへのアドバイス、サポート）
- ・鶴居村役場 企画課 産業振興課（取り組みのサポート、運営補助）

- H30年9月に関係者を構成員として鶴居村農泊推進協議会を設立。

＜運営体制＞

- 村の基幹産業である酪農を応援するため、レストラン、チーズ工房、一棟貸しコテージ、ゲストハウス等からなる施設「ハートン・ツリー」が中心となって、地域資源を活用した農泊を推進。
- 観光協会が中心となり、平成30年9月に地域協議会を設立し、地域の宿泊施設を対象としたインバウンド対応セミナーの開催、ガイド業者で連携し四季を通して提供できるプログラムを開発する等、地域での取組を進めている。



インバウンド対応セミナー

【取組内容】

＜宿泊・食事＞

- 宿泊とレストランがセットになった施設で、農村に暮らすようにゆっくりと滞在してもらいたいスタイルを目指す中で、ゲストとの交流を重視。
- 地域の野菜や乳製品、チーズ製造の過程で生まれる副産物「ホエイ（乳清）」等を活用しメニューを開発。

カフェ&レスト
「ハートン・ツリー」

＜特徴的な取組＞

- FITをターゲットとして、英語のWEBサイトは写真を中心としたデザインとし、SNSを英語で発信。Wi-Fi、キャッシュレス決済にも対応。
- WWOOFのホストとして外国人を受け入れ、外国人ボランティアがインバウンドの接客等にも対応。

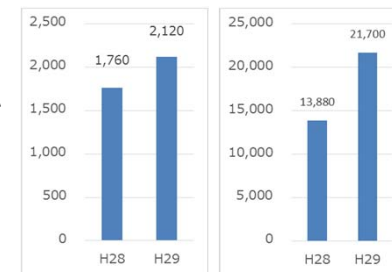
※WWOOF：有機農業等を実施する農家がホストとなり、食事と宿泊場所を提供し、そこで手伝いたい・学びたいと思っている人がボランティアとして手伝うしくみ

- インバウンドの予約の9割以上がBooking.comやAirbnb等のWebサイトからであり、予約後にメールで細かく質問されることが多いため、素早く英文で対応できる者を専門で雇用。
- 宿泊の5割がFITで、東南アジアが多い。タンチョウヅルのベストシーズンである2月はインバウンドが8割以上に及ぶ。



●Our message
Hearton Tree is a farm restaurant located in Tsuru Village in the eastern part of Ishikari, Japan's northernmost island. It is operated by the Okazaki-Hokkaido Company. You will feel right at home here with all our homemade cooking. Try out our popular gyoza or bread bowls, or have some of our European-style fine sugar sweets. We also have some fun activities you can try out with your family, including cooking lessons, beer tastings, or stay in our Guest House, where you can enjoy views of the star-filled night sky.

英語版HP

外国人宿泊者数
(人)売上額
(千円)

(出典) 鶴居村観光協会への聞き取り

余市町観光地域づくり協議会

(事例②：地域資源の活用)

よいちちょう
〔北海道余市町〕

- 平成23年に国の構造改革特別区域法によるワイン特区の認定を受け、農業者が自ら生産した果実を原料としてワインやリキュールを製造し提供する農家民宿や農家レストランを営む環境を整備。
- 持続可能な体制づくりを目指し、農業・漁業・文化財施設のほか、ウイスキーやワインなど複数の観光資源を組み合わせた多彩なメニューの提供など、宿泊者数の増加に向けた取り組みを実施。

【地域の概要】

北海道余市町



＜地域の特徴＞

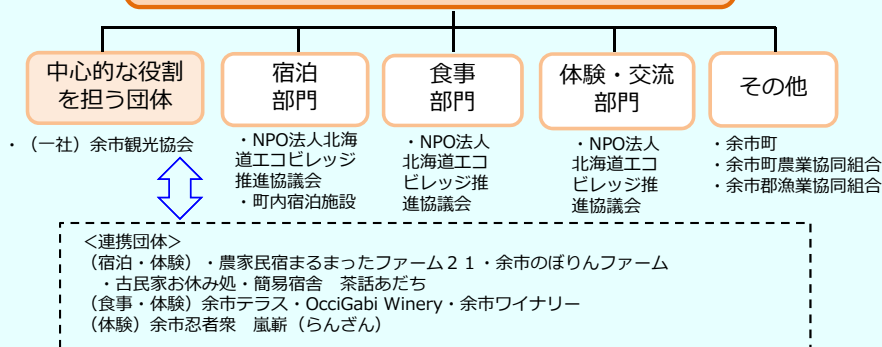
- ニセコ積丹小樽海岸国定公園の一部で美しい景観、遺跡等の文化財など観光資源が豊富。
- リンゴやブドウなど北海道の果樹生産の拠点として発展。
- ニッカウヰスキー余市蒸溜所の建造物9棟が国の登録有形文化財に認定。



ニッカウヰスキー
北海道工場余市蒸溜所

【実施体制】

余市町観光地域づくり協議会 (事業実施主体)



＜運営体制＞

- 余市町は札幌市から日帰り圏であるため、典型的な通過型観光になっていたが、平成27年に北海道版構造改革・地域再生特区に認定され、農家民宿事業の充実を目指す。滞在型の農作業体験による都市との交流を進め、販路拡大による農家所得の向上、農業の6次産業化を推進。持続可能な体制の強化のため、余市観光協会が中心となり平成30年に地域協議会を設立。

＜個性あふれる地元の人材活用＞

- 新鮮な海の幸の宝庫である余市の漁港ガイドに、水産業の歴史や営みなど豊富な知識を持つ元水産業普及指導員を活用。数少ない現役女性漁師によるウニ剥き体験も実施。
- 余市町で農業もこなす忍者エンターテイナー「嵐斬(らんざん)」と手裏剣や忍者刀を使った体験も可能。



元水産業普及指導員による
漁港散策



忍者体験

【取組内容】

＜宿泊に関する取組＞

- リンゴ農家民宿に泊まって果樹栽培の歴史を学んだり、北海道産の木材や古材を使った一棟貸の宿泊施設で地元住民との交流を楽しむ宿泊プランを販売。
- タブレットを活用し、余市町内にある宿泊施設14軒(ホテル・旅館6軒、民宿等8軒)の予約状況を一元化。余市観光協会で管理することでコーディネート機能を拡充。



農家民宿まるまったファーム



旧余市福原漁場

＜体験に関する取組＞

- ニッカウヰスキーだけでなく、ニシン漁の歴史を今に伝える「旧余市福原漁場」、江戸時代からある運上家では唯一とされる「旧下ヨイチ運上家」などの文化財施設、余市の海産物を使った寿司握り体験、果樹園で収穫した果物の加工体験などを組み合わせた滞在型商品を販売。
- 町内には11軒のワイナリーがあり、国内で有数のワイン産地。収穫体験だけでなく、冬はスノーシューでブドウ畑散策など四季ごとのワイナリーの楽しみ方を提供。



夏のワイナリーツアー



冬のワイナリーツアー

＜PRに関する取組＞

- 余市町の魅力をまとめたミニ冊子を作成し、観光客に余市町を知ってもらうとともに、子供たちをはじめ、地域住民が歴史や産業、農泊推進の柱となる体験観光メニューなど地域の魅力を知ることによって地元への誇りを持ってもらい、観光客をガイドしながら一緒に楽しむ体制を構築。

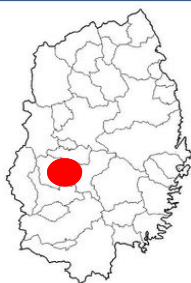


ミニ冊子「PATHFINDER」

- グリーンツーリズムに取り組んでいたものの、受入農家の高齢化により宿泊施設が減少した。これを補うため、農協が主導し温泉旅館等の地域の事業者を巻き込む地域ぐるみの協議会組織を再構築。
- 地域出身の詩人・宮沢賢治にゆかりの地域観光コースを設定し、滞在時間の長期化を目指すと共に、教育旅行以外の客層の取り込みを目指す。

【地域の概要】

岩手県花巻市



＜地域の特徴＞

- 教育旅行における田舎暮らし体験を引き受けることは、農家組合員の所得向上をもたらす、持続的な地域振興策であるとして取組を開始。
- 顧客層の拡大を図るために、近隣観光施設との連携を深め、新たなターゲット（インバウンド等）を指向。



一面の雪景色

【実施体制】

はなまきグリーン・ツーリズム推進協議会

JAいわて花巻
(中核法人)

産直かあちゃんハウス
だあすこの会

JAいわて花巻青年部

JAいわて花巻女性部

JAいわて花巻
農家組合協議会

産直すぎの樹

花巻市（農政課・観光課）

花巻観光協会

受入農家の会

県南広域振興局

花巻市教育委員会

花巻市森林組合

花巻温泉郷観光推進協議会

花巻市内事業者

＜JA全国組織との連携＞

JAグループ農泊の推進研究会（構成員）

- ・ JA紀の里 ・ JAきみつ ・ JAいわて花巻 ・ JA全中
- ・ 農林中金総合研究所 ・ 農協観光 ・ 全国農協観光協会

＜取組の経緯＞

- H10年より、JA農家組合員の生きがい向上のため、農家民泊による教育旅行の受入を開始したが、受入農家の高齢化に伴い、受入農家数が減少。それに伴い、受入人数も減少傾向。
- 飲食店や宿泊事業者との地域内連携を通じた役割分担の構築をすることで、花巻らしい体験や受入人数の拡大を目指す。
- 受入農家の負担を減らすため、宿泊先を温泉旅館泊と分担している。

【取組内容】

＜特徴的な取組＞

- 参画農家の高齢化に伴い、宿泊提供による負担が大きいことから温泉旅館と提携して受入規模を拡大。
- ひつつみ・こびり作りなど様々な郷土料理体験を参画農家で提供できるほか地元事業者と連携し、わんこそば体験の提供もしており、受入規模の拡大を図ることができた。
- 花巻出身の詩人・宮沢賢治の作品のモチーフとなった早池峰山のウォーキングや、宮沢賢治童話村などを取り入れた、出身地ならではの体験を提供し、教育旅行だけでなく一般旅行客やインバウンドの取り込みを目指している。



宮沢賢治の世界に触れる



事業者による名物料理の提供
によって受入規模を拡大



地域の事業者と連携し
た企画旅行商品を造成

- 花巻観光協会と連携し、2019年5月以降、月1回農泊に関する着地型旅行商品を販売するほか、地域の特徴(ワイン・日本酒などお酒に関するコース、お米や雑穀など食事に関するコースなど)を売り出したウォーキングコースを設定。
- 花巻地域の魅力をまとめたPR動画を制作し、岩手県盛岡市や遠野市という近隣地域や、東京銀座など首都圏で放映し、魅力を発信する。

大館市まるごと体験推進協議会

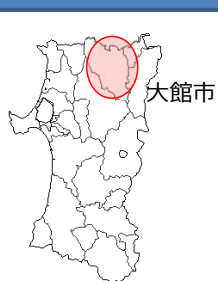
(事例④：地域連携DMOとの連携)

おおだてし
〔秋田県大館市〕

- 地元農家のお母さん達を中心に構成する「陽気な母さんの店」が中核法人となり、教育旅行の受け入れから始まり、本場のきりたんぼ作り体験等を提供し、現在はインバウンドの受け入れに注力。
- 広域連携による観光振興やインバウンド受入体制については、(一社)秋田犬ツーリズム(地域連携DMO)と連携し、さらなる観光客の誘致を目指す。

【地域の概要】

秋田県大館市

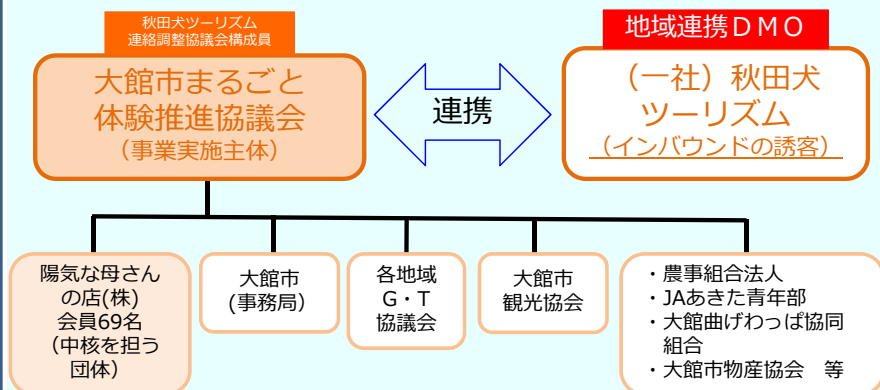


＜地域の特徴＞

- H17に大館市、田代町、比内町が合併し、現在の大大館市となった。
- 「きりたんぼ」の本場と言われており、日本三大地鶏の一つ「比内地鶏」の産地でもある。
- 秋田犬の原産地でもあり、忠犬八公のふるさと。



【実施体制】



＜陽気な母さんの店＞

- 農産物や農業について消費者に理解してもらうためには、農産物をただ売るだけでなく、農家と消費者とで「体験交流」しながら直売活動をする必要があると考え、H13に直売所(陽気な母さんの店)を開業。
- 会員の高齢化により直売所の経営が先細りするという問題意識から、継続性の確保のためH27に株式会社化。

＜大館市まるごと体験推進協議会＞

- 市町村合併前の旧市町村エリアに、教育旅行を受け入れる既存の団体が複数あったため、それらを統合し、H22に体験申し込みのワンストップ化を図る組織として、官民共同で設立。H29からインバウンド受け入れ推進に取り組む。

＜(一社)秋田犬ツーリズム＞

- インバウンドという新たな層を取り込むことを目的に、既存の観光協会とは別組織として2市1町1村(大館市・北秋田市・小坂町・上小阿仁村)にてH28に設立。

【取組内容】

＜協議会の取組＞

- 当初は農家民泊にて教育旅行を受け入れ。その後、教育旅行で来た子ども達が大館市を再訪する際に農家に宿泊できるよう、「陽気な母さんの店」が中心となり、民宿の開業に向け勉強会を開催し支援を行った結果、農家民宿は現在17軒(H31時点)。
- 農家のお母さん達が集まり、「味」から地域を伝えるため、本場のきりたんぼ作り体験を提供。また、農作業などの体験は、気候や天候に対応したメニューを用意。現在では、教育旅行だけでなく、個人旅行者やインバウンドに対しても、これらの体験を提供。



きりたんぼ作り体験



りんご収穫体験(晴れの日)



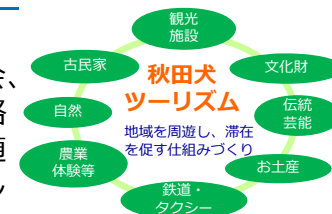
ごもち作り体験(雨の日)



農家民宿でのおもてなし

＜(一社)秋田犬ツーリズムとの連携＞

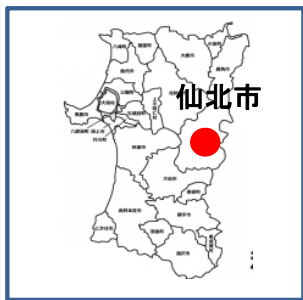
- ツーリズムが連携団体として構成する、多様な関係者(県、市町村、観光物産協会、旅館組合、鉄道会社等)が参加する「連絡調整協議会」に協議会も参画。DMOと随時情報共有を行い、ツーリズムを中心として広域連携による観光振興を図る。
- ツーリズムが主催するワークショップ(全3回開催)にて、陽気な母さんの店のほか、観光協会や民間企業、旅館等が参加し、地域の多様な業種に対応した地域ならではの『地域版指さし会話帳』を作成。



指さし会話帳

- H30年に国家戦略特区を活用し、国内旅行業務取扱管理者資格を取得。また、地域限定の旅行業を取得し、旅行業者としてワンストップサービスの体制を構築。
- 国内外の個人旅行観光客への対応と所得向上を目指し、HPの多言語化やカード決済システム、Wi-Fi環境、宿泊施設内の多言語表記等について受入体制を整備。

【地域の概要】



＜地域の特徴＞

- 主要産業は農林業と観光業。
- 武家屋敷を中心とした重要伝統的建造物群保存地区があり、「みちのくの小京都」と呼ばれる歴史の町である。

＜仙北市の風景＞

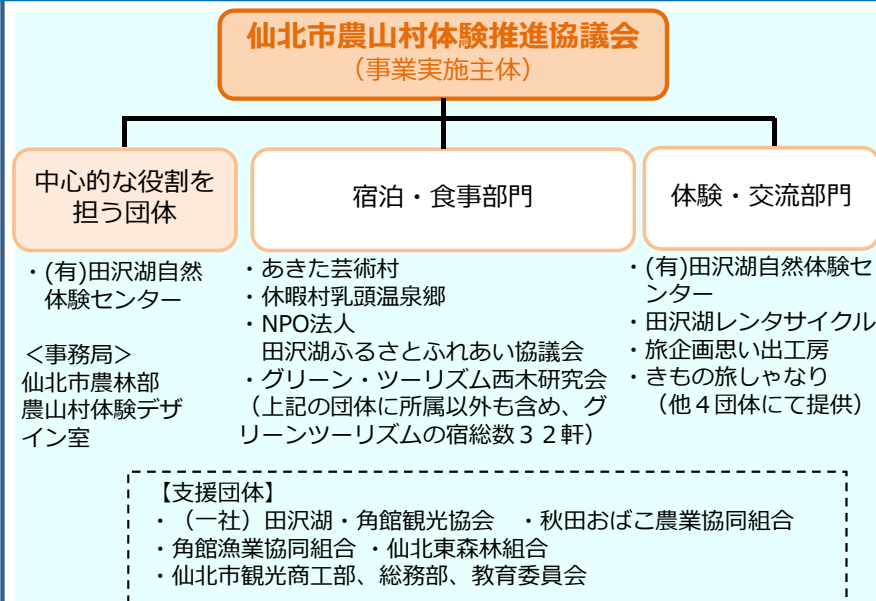


田沢湖



武家屋敷

【実施体制】



○ H20年に市、観光協会、J A等が構成員となり設立。

＜運営体制＞

- 地域限定の旅行業を取得しており、HP (英語版有り) から予約が可能でワンストップサービス体制を構築。
- 英語対応ができない宿泊施設の外国人旅行者との交流手段として、翻訳アプリを導入。
- 現在は、タイの大手旅行会社を初め様々な国の現地手配業務を行い、インバウンド受入対応強化に向けた取組を推進している。



英語版HP

【取組内容】

＜宿泊＞

- あきた芸術村、休暇村乳頭温泉郷、農家民宿やペンション等の運営者から構成されるNPO法人田沢湖ふるさとふれあい協議会、グリーン・ツーリズム西木研究会や上記団体所属以外のグリーンツーリズムの宿 (32軒) で受入を実施。



庵農家民宿 泰山堂



農家民宿 西の家



農家民宿 輝湖



休暇村乳頭温泉郷

＜誘客コンテンツ＞

- 田沢湖・秋田駒ヶ岳等の美しい自然を活かしたラフティング等のアクティビティ、角館の武家屋敷通りでの着物着付け体験等、地域の特徴を活かした数多くの体験コンテンツを実施。

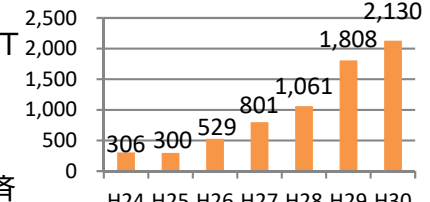


着物着付け体験

＜特徴的な取組＞

- 国際交流団体の受入れに加え、FITの受け入れ数が急激に伸び、グリーンツーリズムの宿の外国人宿泊者数は年間2,130名 (H30) を超える。
- 地域全体にWi-Fi環境、カード決済システム、多言語表記導入などの環境を整備。
- 国内外の個人旅行者の誘客拡大に向けて、高齢の受入農家の労力を軽減し、開業農家や泊食分離食分離、アルベルゴ・ディフーズ (分散型ホテル) の考え方に基づく地域づくりを目指す。

外国人宿泊者数 (人)



(出典) 農山漁村振興推進計画書



インバウンドの受入

- 中核法人 ((株)大田原ツーリズム) は、大田原市の事業構想に基づく推進母体として、市と地元企業の出資により設立。
- 地域の特徴が活かせる農業体験を中心とした教育旅行を主力として取組んでおり、持続的な受入を行っていくために、行政機関等を巻き込んだ堅牢な体制を構築している。

【地域の概要】

栃木県大田原市



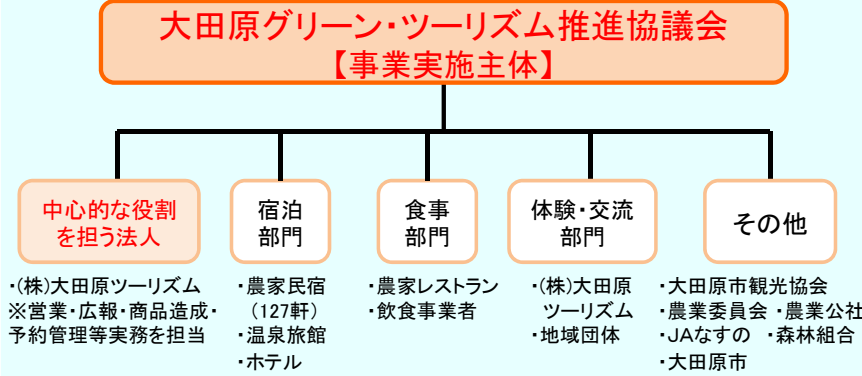
＜地域の特徴＞

- 那須野ヶ原の広大な平野部に位置し、清流・肥沃な大地・自然環境に恵まれている。
- 首都圏への食料の大供給地であり、広大な耕作地を利用して、数百名での田植えなど、大規模な農業体験の実施が可能。



那須野ヶ原

【実施体制】



＜中核法人について＞

- 平成22年に、大田原市はグリーンツーリズムによる誘客構想を策定、その推進母体として平成24年に株式会社大田原ツーリズムを設立。
- 株式会社大田原ツーリズムは市と地元企業18社からの出資を受け、民間から社長を迎えるPPP（官民パートナーシップ）形式であり、旅行業の資格を取得。
- 地域ぐるみの取組とするため、JA、森林組合、観光協会、商工会、地域住民団体等の参画を得て、協議会を設立。



安全管理研修

【取組内容】

＜品質の向上＞

- 低価格での体験では継続性が無いため、利益が出る単価が設定できるように、広大な農地を持つ地域の特徴を活かした、高付加価値の体験を行っている。
- 継続的に受入を行うための、地域作りに係る業務量を考慮し、会社が維持できる販売価格を設定。
- 協議会を中心に、受入マニュアルの整備、地域の合意形成、勉強会実施など、地域内調整やサービス品質の向上を目指す。

＜受入体制＞

- 受入を行う農家は、全て簡易宿所を取得し、旅館業として営業できる施設のみを会員とする。
- 引率教員の巡回体制や、事故発生時の緊急連絡体制を地域の関係機関を巻き込んで構築。安全管理体制に万全を期している。

＜インバウンド＞

- 高まるインバウンド需要を取り込むため、海外への営業活動・商談会へ参加。現在、主に台湾からの教育旅行の受入も実施。平成29年度は、400名を超える海外教育旅行を受入。



120以上の体験プログラム



JTBとの共同企画ツアー



座禅体験

- 訪問者数は順調に推移し、H29年の宿泊者実績はH28年対比で2割の増加となった。

(一社) 秩父地域おもてなし観光公社

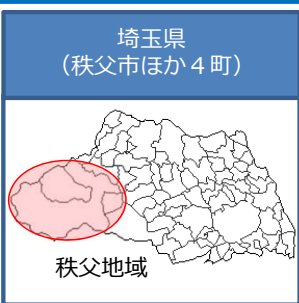
(事例⑦：地域連携DMO×農泊)

〔埼玉県秩父市ほか4町〕

ちちぶし

- 地域連携DMOが農泊に取組み、行政や観光協会、地域住民、鉄道会社等の多様な関係者と連携し、コンテンツ開発や受入体制の整備、PRを実施。
- 秩父地域全体で連携する必要のある事業を実施するほか、様々な関係者が自由に参加できる会議を開催し、そこでの意見を元にインバウンド誘致の取組方針を策定。

【地域の概要】



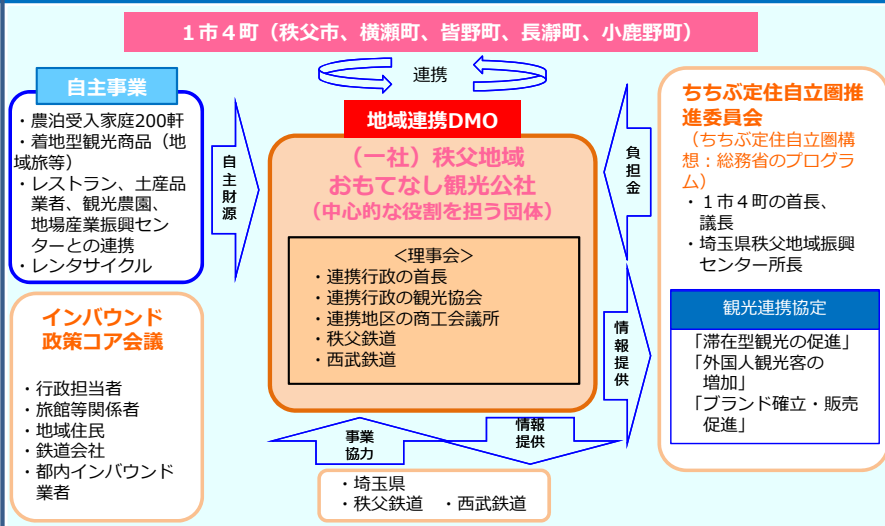
<地域の特徴>

- 「秩父地域」は1市4町にて構成。
- 豊かな自然とユネスコ無形文化遺産に登録された「秩父夜祭」など観光資源も豊富。
- 都心から近いいため、日帰り観光客が多く、宿泊者は全体の2割強。
- 「第5回ディスカバー農山漁村の宝」選定地区。



秩父夜祭曳子体験ツアー

【実施体制】



<秩父地域おもてなし観光公社>

- (一社) 秩父地域おもてなし観光公社 (以下、公社) は、1市4町にて締結された観光連携協定を促進する組織としてH24に設立。H28に日本版DMOの第一弾として登録。理事会には、1市4町の首長、観光協会、商工会、鉄道会社が参画し、定期的に計画の見直し、合意形成を諮る。
- 中心事業として、行政、観光協会、商工会で実施しておらず、かつ、秩父地域全体で連携する必要のある事業 (例: 農泊) を担当することにより、地域全体の観光プラットフォームとしての機能を確立。
- 地域内でインバウンド事業への機運が高まっていたが、事業の方向性が定まっておらず、様々な意見が出ていることから、インバウンド誘致について、誰でも自由に出入りし発言できる場として、「インバウンド政策コア会議」を設置。

【取組内容】

<DMOが農泊に取り組んだ経緯>

- 「農泊」について、1市4町が連携するツールとして、関係市町の首長全員が、公社設立当初から、実施に向けた意向が強かった。
- 埼玉県が進める、県内に教育旅行を誘致するための「教育旅行のメッカ」埼玉づくり事業について、秩父地域において教育旅行の受入に協力するよう、県からの要請。
- これらの経緯から、H26より公社の中心事業として、農泊による教育旅行の受入を開始。



教育旅行

<コンテンツ開発の一例>

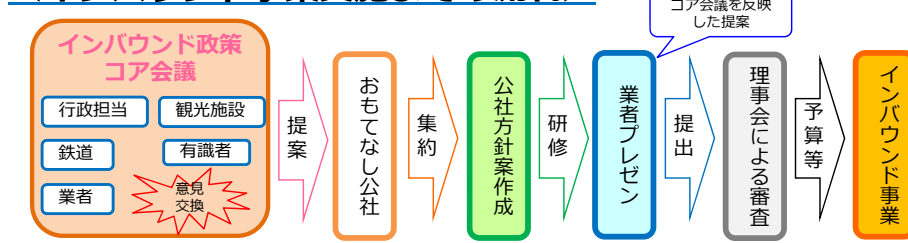
- 公社が「地域限定旅行業」を取得し、地域全体の観光資源を組み合わせた体験型プログラム『ちちぶを旅する地域旅』の販売を実施。民間企業が運営する旅行サイトにて予約を受付。

『地域旅』の例	
ラフティング	ピザ作り体験
地酒で乾杯！炭火BBQ	BARで秩父ウィスキー
イチゴ狩り富田農園	バイエル温泉と秩父食材夕食



秩父地域の
おすすめ体験プラン
ちちぶを旅する地域旅

<インバウンド事業実施までの流れ>



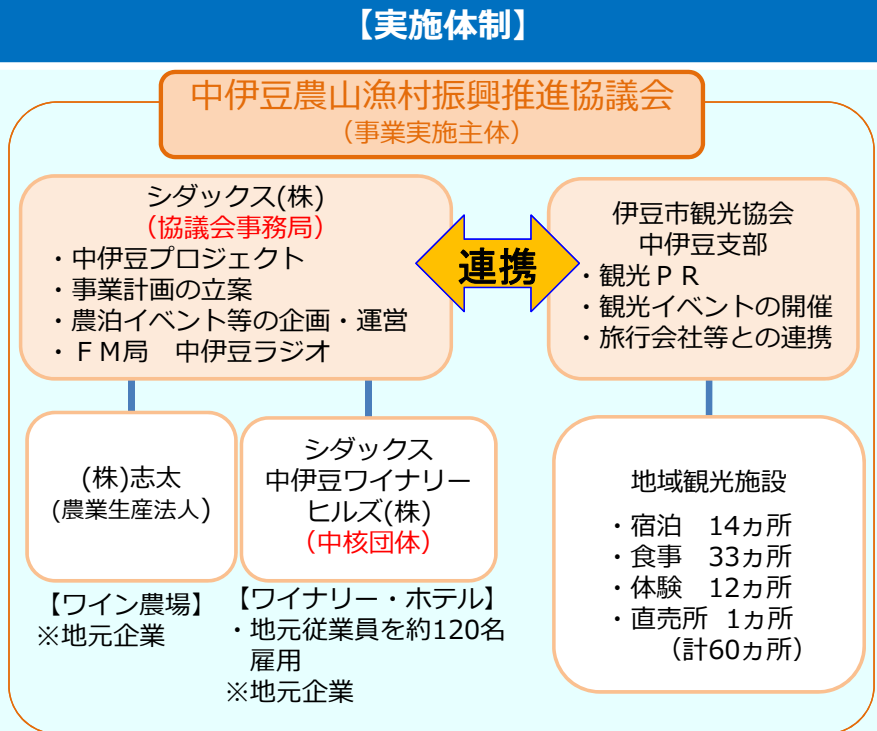
- ワイナリーやスポーツ施設などの地域資源を活用し協議会が主体となった商品の造成により国内及びインバウンド向け着地型観光需要の増大を目指す。
- 協議会事務局のシダックス(株)等のノウハウを活用し、農泊のモデル的な取組や事業計画を策定し、中伊豆地区の持続的な農泊の実施に向け取組。



＜特徴＞

- 世界農業遺産に認定された水わさび伝統農法や萬城の滝、市内には修善寺という高名な温泉街など観光資源が存在。
- 観光施設の老朽化などにより、観光入込客数が減少している上、他の観光地への通過点となっているため、着地型観光の充実が必要。

中伊豆ワイナリーヒルズ



＜地域連携＞

- 伊豆市観光協会中伊豆支部が観光協会会員（地域の60観光施設）を取りまとめ、シダックス(株)の窓口となり、地域の観光施設とシダックス(株)が連携。
- 地域の方々に農泊の取組を知ってもらい、仲間作りを進めるため、FMコミュニティラジオ（週1回1時間番組）や伊豆日日新聞、伊豆箱根鉄道の中吊り広告で農泊イベント等、協議会の取組のPRを実施。

FM 中伊豆ラジオ

【取組内容】

＜宿泊＞

- 中伊豆地区は伊豆市の他の3地区と比較し、観光業が弱い中、シダックス中伊豆ワイナリーヒルズ(株)が18年前に日活(株)の保養所を再生し、温泉、プールや野球場などのスポーツ施設も備えるホテルを開業。
- ホテルワイナリーヒルの宿泊能力は57室最大250人/日 宿泊実績41,789人(H29年度)。

ホテル ワイナリーヒル

＜ワイナリー＞

- ホテル開業と同時期にシダックス(株)がワイナリーも開業。ワイナリーを中心とした観光コンテンツ（ワイン、乗馬など）を開発。中伊豆地区の観光の中核的役割。

ワイン農場と乗馬体験

＜特徴的な取組＞

- 伊豆市産業振興促進計画(2017年)やシダックス(株)による中期経営計画（2017年）をもとに協議会が農泊の事業計画を策定し、協議会が農泊事業の評価指標の1つとして、シダックス中伊豆ワイナリーヒルズ(株)の売上や宿泊者数を設定。H29年度の実績はH28年度比で売上131%、宿泊者数115%と増加。
- 上記の目標を達成するため、シダックス(株)だけでなく、地域が一丸となった取組が必要であることから、地域の観光施設等と連携するプロジェクトを立ち上げ。取組を中伊豆地区から伊豆市全域へ拡大し、2020年度に伊豆半島全域へ拡大する構想。

2017年度～ 中伊豆農山漁村振興推進協議会(中伊豆地区)で開始

2018年度～ 伊豆市全域へ拡大

2020年度 伊豆半島全域へ拡大

農泊プロジェクト

- ・中伊豆農山漁村振興推進協議会との連携

伊豆市地域活性化

- ・サービス共創
- ・伊豆市DMOとの連携

全域での地域活性化

- ・静岡全域サービス連携
- ・観光DMOとの連携

中伊豆プロジェクト

- 自然や歴史文化と共存しながら持続可能な農村の発展を目指す「馬瀬地方自然公園づくり委員会」を発足させ、宿泊施設や飲食店等と連携し、レンタサイクルツアーや食の体験の事業を展開。
- 南飛騨馬瀬川観光協会を窓口として、体験プログラムやエコツアープログラムを販売しており、(一社)下呂温泉観光協会と連携して、増加する個人旅行客やインバウンドに対応している。

【地域の概要】

岐阜県下呂市



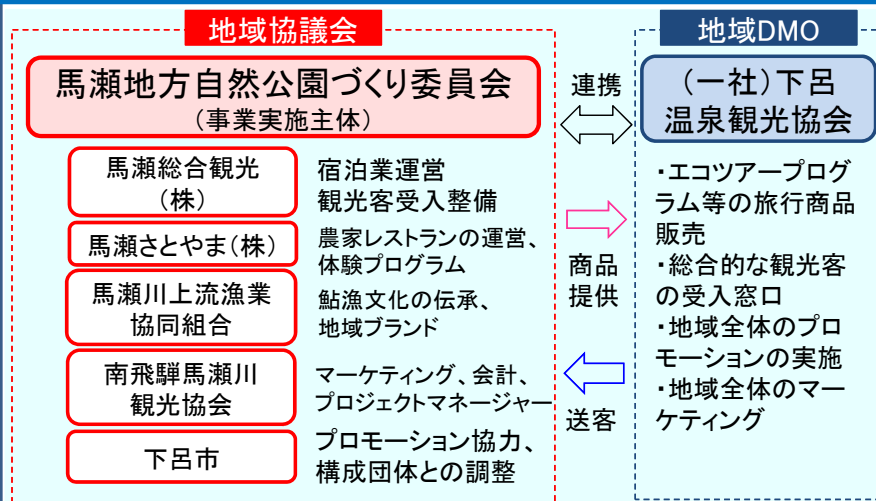
＜地域の特徴＞

- 清流馬瀬川と緑あふれる水源地域で、「日本で最も美しい村連合」に加盟。
- 清流で育まれた「馬瀬川上流鮎」や米「水源米馬瀬ひかり」など、食材の宝庫。



馬瀬川上流鮎

【実施体制】



＜中核法人＞

- フランスの「地方自然公園制度」を参考に、平成17年に「馬瀬地方自然公園づくり委員会」を設立。同委員会が主体となり、地域資源のブランド化（鮎、米等）や里山ミュージアムのガイドツアー等を実施。平成29年から、同委員会が事業実施主体となり地域協議会を構成。

＜運営体制＞

- 同委員会が中心となり、地域での受入窓口として、南飛騨馬瀬川観光協会、鮎を中心とした食事を提供する「さとやまレストランみず辺」を運営する馬瀬さとやま(株)、馬瀬川上流漁業組合、下呂市等と連携。宿泊施設として、馬瀬総合観光(株)が運営する「ホテル美輝」、料理旅館「丸八旅館」、3軒の釣り民宿があり、体験プログラムに食やホテルを組み込むなど、地域一体となった観光誘客を展開している。

【取組内容】

＜特徴的な取組＞

- 馬瀬地域の観光商品（五平餅づくり体験、レンタサイクル里旅体験等）を、エコツアープログラムとしてDMOと連携して販売。
- 馬瀬地域の電動バイクでのガイドツアー（1人8,000円～）を実施し、平成30年にはインバウンドを中心に20ヶ国以上から150名以上の参加があった。



電動バイクでの馬瀬ガイドツアー

＜地域固有の食と「SAVOR JAPAN」＞

- 「馬瀬川上流鮎」や「水源米馬瀬ひかり」などの食材、伝統的な鮎の漁法である「火ぶり漁」、里山ガイドツアー等が評価され、平成28年に「SAVOR JAPAN」に認定された。
- 料理研究家と連携し、地域の食材を活用した「馬瀬鮎ドリア」等の食事メニューを開発。地元のホテルや飲食店で開発したメニューを販売している。



馬瀬鮎を使った馬瀬鮎ドリア

＜下呂温泉観光協会との連携＞

- 地域協議会では食や体験の観光商品の造成を実施し、地域DMOである下呂温泉観光協会に提供。地域DMOでは、造成された観光商品を販売するほか、モニターツアー等の送客を行い、地域協議会を支援。
- 下呂温泉と一体となったインバウンド対応を地域DMOが行い、観光客やメディアなどを地域に招請。



美しい農村景観が残る馬瀬里山ミュージアム

- 「日本の棚田百選」に認定された「坂折棚田」をはじめ豊かな自然と暮らしがあり、その価値を持続するためにNPO法人恵那市坂折棚田保存会が中心となり、農泊事業を展開。
- 同NPO法人を主体として、棚田を活用した様々な体験プログラムに加え、地域の宿泊施設の開設や食の磨き上げを行っており、旅行会社等と連携しながら受入体制を整備している。

【地域の概要】

岐阜県恵那市

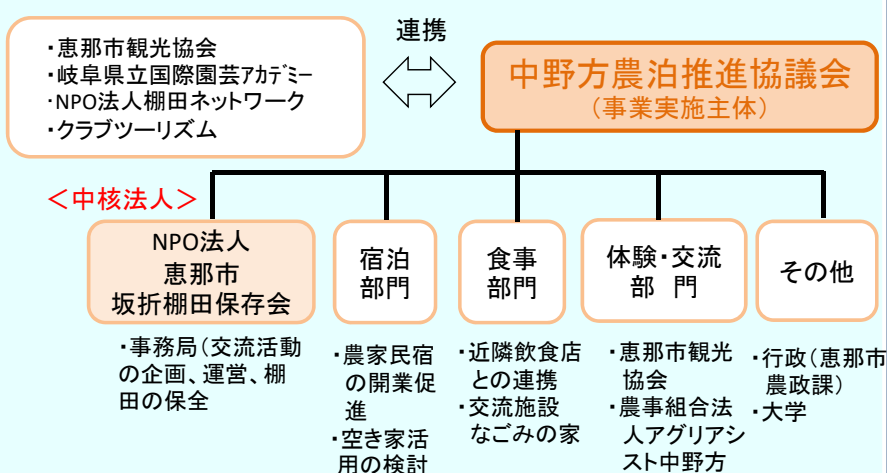


恵那市

＜地域の特徴＞

- 平成11年に農林水産省の「日本の棚田百選」に選定された豊かな農村文化の残る地域。
- 地域の人口は1,575人（平成30年12月1日時点）、高齢化率41%の中山間地域で、558世帯のうち、約4割が農家（230戸）。
- 名古屋市内から車で約1時間20分の郊外に位置し、利便性が高い。

【実施体制】



＜中核法人＞

- 平成11年に農林水産省の「日本の棚田百選」に選定されたことを契機に、平成15年に地元で有志の会が発足、平成20年にNPO法人恵那市坂折棚田保存会が組織化。
- 平成28年の地域の将来像アンケートで、空き家の多数発生が判明。交流人口を増やし移住定住促進が大きな課題となった。平成29年の地域の意向調査では、農泊推進の同意形成が促された。

＜運営体制＞

- NPO法人恵那市坂折棚田保存会が中核法人。宿泊は地域住民が開業する農林漁業体験民宿（4軒）、体験メニューは同法人が窓口となり、棚田ガイドツアーや棚田オーナーなどを企画・運営。



棚田オーナー制度

【取組内容】

＜棚田を活用した体験プログラム＞

- 坂折棚田固有の石積みやオーナー制度等の体験プログラムにより棚田を保全し、交流人口を増やしながらか地域の維持を図る。
 - ・棚田オーナー（5月～10月）
 - ・棚田ガイドウォーク（4～11月）
 - ・野菜収穫体験（4～11月）
 - ・田の神様灯祭り（6月）
 - ・独自の石積みを学ぶ石積み塾(10月)
 - ・炭焼き体験（冬期）



(上) 棚田ガイドウォーク
(下) 石積み塾

＜食事＞

- 交流施設「なごみの家」内「さかおりお茶番処」や農事組合法人「なかのほう不動滝やさいの会」での地元米や野菜をふんだんに使った食事（朴葉すし定食等）の提供
- 料理研究家のアドバイスで地元の食材（米、粟）を活用した食事メニューの磨き上げを図っている。



朴葉すし定食

＜宿泊＞

- これまで宿泊施設のなかった同地域に農林漁業体験民宿を4軒開設。
- 今後1軒の開設を予定しているほか、民宿開業に興味のある住民に対して、先行した民宿から開業方法を講義するなど協議会がサポート。



農林漁業体験民宿

- 日本一現役の海女が多いまちとして、漁業と観光の連携によるまちづくりを推進するため、相違地域海女文化活性化協議会を設立。
- 継続的な来訪者確保のため、着地型商品をセットにした宿泊商品の販売をおこなうなど宿泊客の増加を図るとともに、地域が一体感を持った海女のまち相違のプロモーション活動を実施。

【地域の概要】

三重県鳥羽市



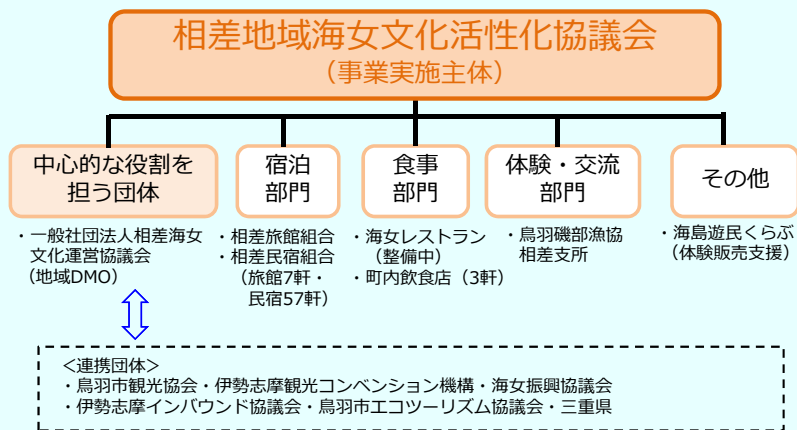
鳥羽市

＜地域の特徴＞

- 主要産業は伊勢海老を代表とする漁業、伊勢志摩の風光明媚な景色を活かした観光業。
- 「鳥羽・志摩の海女漁の技術」が国の重要無形民俗文化財に指定、「鳥羽・志摩の海女漁業と真珠養殖業」は日本農業遺産に認定。



【実施体制】



＜運営体制＞

- 地域住民のモチベーションを向上させ、持続可能な地域づくりを目指す地域DMOとして設立した（一社）相違海女文化運営協議会を中心に、相違地域に残る海女文化の継承や普及、まちづくりにつながる活動を効果的に行うため、鳥羽市農水商工課・観光課を構成員に加え、地域協議会を立ち上げ。
- （一社）相違海女文化運営協議会が体験施設「海女小屋 相違かまど」を運営し、現役の海女をスタッフとして雇用。海女の漁獲による収入を補う重要な収入源となっている。

＜インバウンド対応＞

- 町内施設サインはすべて英語併記し、協議会HPも英語、中国語（繁体字）に対応。海女小屋体験では英語メニューやスマートフォン翻訳ソフトを活用しコミュニケーションを取っている。

【取組内容】

＜海女文化に関する取組＞

- 現役の海女とふれあうことができる「海女小屋 相違かまど」、海女について知る「海女文化資料館」、海女に関するグッズ等を販売する「古民家海女の家 五左屋（ござや）」の整備、相違ガイドの育成。賑わいを起こし周遊する拠点づくりを実施。
- 女性の願いをひとつだけ叶えてくれる神明神社「石神さん」をはじめ、海の信仰を知り体験する散策コースを整備。海女や地域に残る風習・文化に着目し商品化。商品造成にあたっては、町内会等と連携。



海女小屋 相違かまど



神明神社「石神さん」



海女さんが魔除けとして身につけていたセーマン（星形）ドーマン（格子縞）が織られたお守り

＜宿泊に関する取組＞

- 海女文化を活用した着地型商品を組み入れた宿泊プランを販売。相違・海女をブランド化し、相違町への入込客数を増加させ、基幹産業である宿泊業の稼働率を上げるとともに、食材を提供する地元漁業を活性化。



旬の海の幸を堪能できる湯宿

＜海女・海洋資源に関する取組＞

- 体験収入の一部をアワビの稚貝放流のために寄付、海女が収穫した海藻を海女の家等で販売など、海女の所得向上につなげていく取組を実施。地元漁協と連携し、海女の後継者の育成や所得向上につながるよう商品開発・販売を実施。



現役の海女さん

- 登録有形文化財の茅葺き宿泊施設等を活用し、付加価値の高いサービスを提供。
- 点在する宿泊・飲食・体験事業者で連携し、地域資源を生かして地域全体をホテルに見立て、経済効果を地域全体に波及。

【地域の概要】



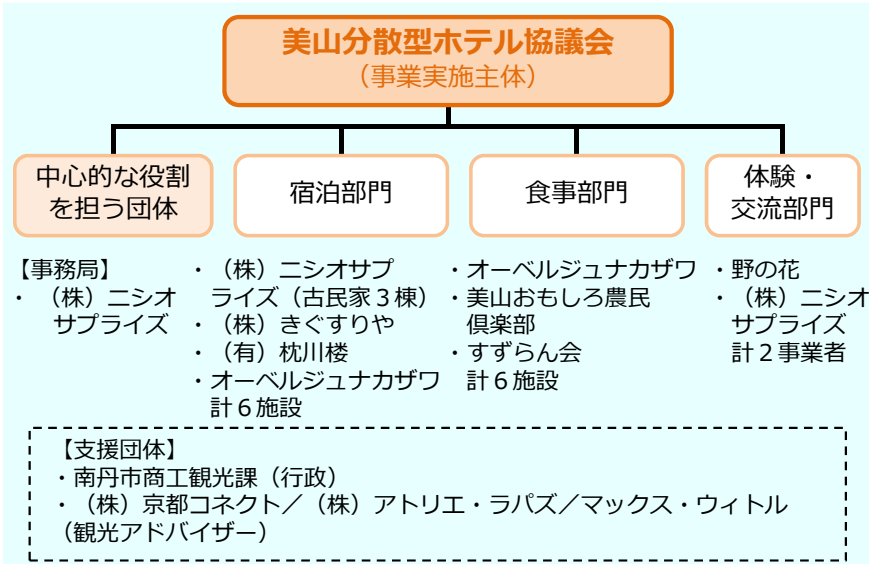
＜地域の特徴＞

- 南丹市美山地区は茅葺きの伝統的建造物保存地区である「里北集落」が有名。
- 京都市内からの車でのアクセスが比較的良好で、里北集落に観光客が多く訪れるものの、日帰り客が中心のため消費単価が低迷。



かやぶきの里北集落

【実施体制】



＜地域分散型ホテル＞

- 古民家宿泊施設を運営する(株)ニシオサプライズが中心となり、地域全体をホテルとみなしたアルベルゴ ディフーズとして展開し、地区に点在する旅館や地域の食材を使用したオーベルジュ (宿泊できるレストラン) 等の事業者で地域一体として運営。



オーベルジュ ナカザワ



古民家宿泊施設「美十八」
(ニシオサプライズ)



料理旅館 沈川楼



料理旅館 きぐすりや

【取組内容】

＜宿泊・食事＞

- 古い程資産価値が高くなるイギリスの古民家宿泊施設経営を参考に、日本では資産価値の無い茅葺家屋を一棟貸しの宿泊施設として再生し、収益を上げることで資産価値を高め、地域の所得向上に繋げることを目的に取組を開始。
- ニシオサプライズが経営する古民家宿泊施設は、無理なく取り組めるよう泊食分離を基本とし、夕食は自炊や旅館、飲食施設と連携した出張調理やケータリング、オーベルジュでの外食等で対応。宿泊料は開始当初は1棟1泊3万円(5名まで定額)でスタートし、徐々に改良して現在は9万円。(稼働率は繁忙期で9割以上)
- オーベルジュナカザワ等の食事施設や美山おもしろ農民倶楽部等の食品加工施設では、地域の食材を使用して、質の高い食を提供。



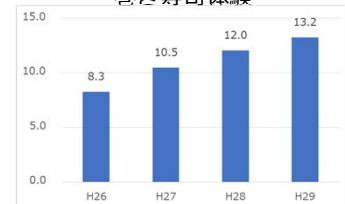
「美山FUTON&Breakfast」
ニシオサプライズ



「美山おもしろ農民倶楽部」の無添加手造りハム・ソーセージ



巻き寿司体験



(株)ニシオサプライズの宿泊客の宿泊単価 (千円)
(出典) 協議会への聴き取り

＜特徴的な取組＞

- インバウンド限定で巻き寿司、天ぷら、味噌汁を組み合わせた郷土料理体験を提供(当初は4,000円でスタートし、現在は8,000円で販売。)

- 伊根町が宿泊施設や食事施設の整備による泊食分離を先行的に進めたことにより、空き家となっていた舟屋を活用した宿泊施設が4軒開業。
- 中核法人は舟屋での宿泊と漁港ならではの旅行商品を販売する窓口として機能するとともに、インバウンドの対応や宿泊予約の取り次ぎを行っている。

【地域の概要】

京都府伊根町



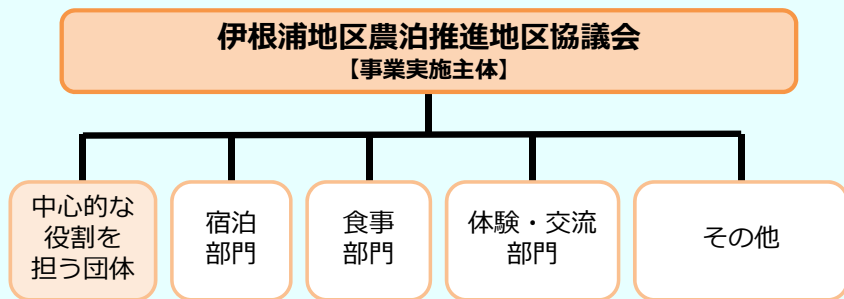
<地域の特徴>

- 日本三大ブリ漁港の一つとして栄えた漁港で、船の収納庫の上に居住を備えた独特の建築物「舟屋」が湾に沿って建ち並ぶ。
- 重要伝統的建造物群保存地区として選定されており、映画やドラマのロケ地として知られている。



上空から見た伊根浦の舟屋群

【実施体制】



- ・(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社 伊根地域本部 (観光協会)
- ・(株)京都北P & M
- ・(株)Sabai
- ・(株)伊根町ふるさと振興公社
- ・舟屋の宿15軒
- ・旅館2軒
- ・民宿1軒
- ・海上タクシーマリネ
- ・向井酒造(株)
- ・観光協会
- ・伊根町
- ・丹後海陸交通(株)
- ・京都府漁協伊根支所
- ・京都北都信用金庫(ほか)

<取組の経緯>

- 舟屋を活用した宿泊施設に泊まりたいというニーズは多いものの、宿泊施設のほとんどが一日一組の利用のため、宿泊ニーズに対応できていない状況。一方で舟屋の空き家が増えているため、伊根町がリーディングモデルとして空き家となっている舟屋を改修し、観光協会が宿泊施設として運営すること等により、空き家となっていた舟屋を活用した宿泊施設が4軒開業。
- 京都府及び北部7市町が連携した「海の京都DMO」の地域本部である観光協会が、協議会の中心的な役割を担い、体験プログラムから旅行商品まで幅広く造成し販売している。



海上から見た舟屋

【取組内容】

<宿泊>

- 「暮らすように旅する」をコンセプトに、伝統的な舟屋を活かしつつ現代になじむ快適な宿泊施設に改修し、個人旅行を想定した一棟貸しとしている。



舟屋の宿「鍵屋」



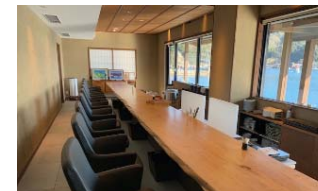
伊根の舟屋「雅」

<体験・食事>

- 伊根湾遊覧や街並み散策ガイドツアーのもんどり漁見学、釣り体験、漁具作り体験など地域ならではの体験を提供し、滞在時間の延長を図る。
- 地域住民による新たな宿泊施設の開業には、食事提供がネックの一つとなっていたため、海に面し舟屋群に隣接した地元産の食材にこだわった寿司割烹「海宮(わだつみ)」や、地元の酒蔵の酒粕を使ったケーキ等を提供する「INE CAFE (イネカフェ)」を町が整備する等、泊食分離を推進。



魚のあらを餌に軒下にカゴを仕掛ける「もんどり漁」の見学



寿司割烹「海宮(わだつみ)」

<その他>

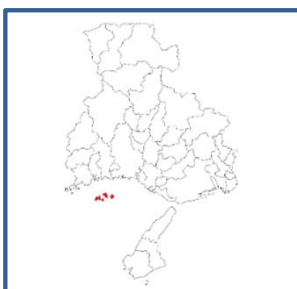
- 観光協会が地域の窓口となり、増加するインバウンド訪問客の観光案内や問い合わせ対応を始め、インバウンド宿泊予約システムを構築して宿泊予約を効率的に管理。



「INE CAFE」

- 兵庫県の離島において、日帰り観光から宿泊型観光「渚泊」への転換を図るため、漁業を主力コンテンツとした食や体験プログラムの充実や情報発信、宿泊施設の増加を推進。
- 島の将来に問題意識を持った住民が任意団体を立ち上げ、多様な関係者を巻き込み島ぐるみでの協議会を設立。大手旅行会社とも連携しながら渚泊を売り込み。

【地域の概要】

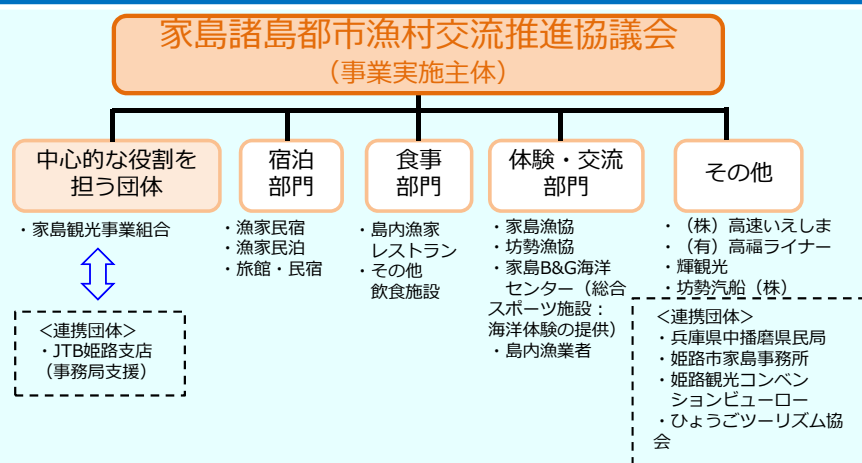


＜地域の特徴＞

- 兵庫県有数の漁業の町として知られ、兵庫県下でも有数の漁獲量を誇る。
- 大阪から約2時間。姫路港から約30分。
- 主要産業は漁業、採石業、海運業。
- 公共事業の激減に伴う石材の出荷量の大幅減少により、主要産業が衰退する現状にある。



【実施体制】



＜協議会設立の経緯＞

- 島の将来への問題意識をもった若手住民により、観光協会のなかに企画推進部会を立ち上げ、市町村合併による観光協会の消滅を契機に、H18に観光事業組合を設立。
- 地域ぐるみの取組とするため、漁協、フェリー船事業者、商工会、自治会等の30団体が参画。
- 会員から組合費を徴収し、家島観光事業組合の運営費に充てている。

＜運営体制＞

- 島内の事業者を中心に協議会を構成。連携団体として行政団体も参画するほか、JT B姫路支店と密に連携し、商品開発やツアー商品の販売等に取り組む。また、姫路観光コンベンションビューローやひょうごツーリズム協会など地域のDMO等と島の情報発信などについて連携をすることにより、集客を図る。



勉強会開催

【取組内容】

＜宿泊＞

- 漁家民宿、漁家民泊、割烹旅館にて受入。受入体制整備のためJT B姫路支店と連携し勉強会やおもてなしの研修会を開催。その結果、坊勢島において、今までになかった漁家民宿が2軒開業。引き続き更なる民泊数の増加を目指す。



料理旅館おかべ



いえしま荘



漁家民宿

＜誘客コンテンツ＞

- 島の最大の資源である新鮮な魚介類を主力コンテンツとして、じゃこ鍋（地元の魚を鍋にした郷土料理）や坊勢サバを使った鯖寿司を開発。
- 地域資源を活用した着地型体験プログラム「家島しま旅」として、鯖の餌やり体験等のほか、渚泊に連動する夜間、早朝の体験プログラムを開発。



じゃこ鍋



家島しま旅



鯖の餌やり体験

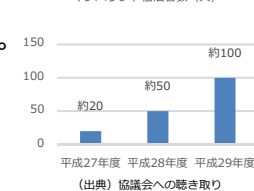


漁業体験

＜その他＞

- 世界遺産姫路城の観光客（欧米豪を中心としたインバウンド含む）をターゲットに誘客。
- 姫路観光コンベンションビューローと連携し、インバウンド向けに家島の宿泊施設を紹介してもらい、インバウンド宿泊者数の増加を推進。

インバウンド宿泊者数(人)



- 中核法人である（一社）大和飛鳥ニューツーリズムにおいて海外も含めた教育旅行を受入れし、民間企業（株）J-rootsにおいて若年層・外国人の個人旅行客をターゲットに受入。
- （一社）大和飛鳥ニューツーリズムでは年間6,000泊以上の教育旅行の受入を実施し、（株）J-rootsの運営するゲストハウスにより、若年層やインバウンドの個人旅行客についても受入数を伸ばす。

【地域の概要】



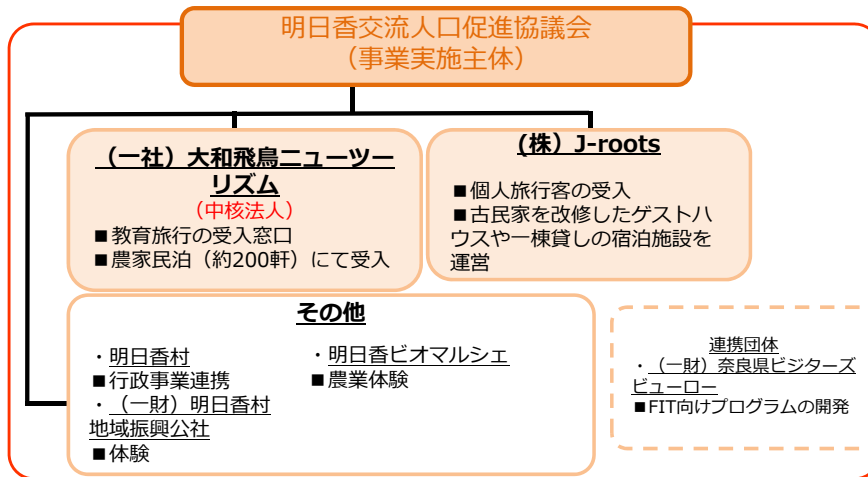
＜地域の特徴＞

- 「日本国誕生」を示す多くの史跡・重要遺跡が集積し、村全域が古都保存法の指定を受けている。
- 「明日香法」※により、ホテルなどの宿泊施設の建設が困難。
- 明日香村と京都大学とで社会連携を結んでいる。

※「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」



【実施体制】



＜中核法人＞

- 人口減少や地域を潤す産業の不在という状況のなか、観光関連産業の振興による地域の商工業の活性化を目指し、H23に中核団体である「飛鳥ニューツーリズム協議会」を設立し、H30に（一社）大和飛鳥ニューツーリズムとして法人化。商工会からも経営指導者が参画。ホームステイ型教育旅行（飛鳥民家ステイ）の受入窓口を担い、特に海外からの受入が過半数を占める。

＜(株) J-roots＞

- H25に商工会ならびに飛鳥ニューツーリズム協議会の関係者を株主とした株式会社を設立。
- 地域住民のほか、京都大学ビジネススクール（マーケティングについて助言）や商工会（インバウンド対応サポート）と連携し、運営。



古民家ゲストハウス

【取組内容】

＜宿泊＞

- 教育旅行については、民泊（約200軒）にて教育旅行の受入を実施。今後は交流を重視する個人旅行者の受入にも対応予定。
- 個人旅行については、空き家を活用したゲストハウスや1棟貸しの設立により、今までにない新しい層（若年層、外国人）をターゲット。ネット予約体制のほかWi-Fiやレンタサイクルも整備。

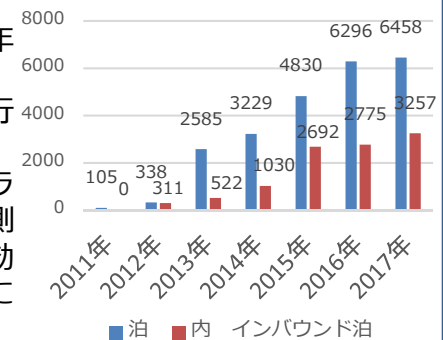


教育旅行
マレーシア高校生

＜(一社) 大和飛鳥ニューツーリズム＞

- 一般的な教育旅行との差別化を図るため、地域住民との交流を重視したホームステイ型の受入を実施。
- 受入数は年々増加し、現在では年間6,000泊以上の受入実績を誇り、その過半数をインバウンド教育旅行が占める。
- 受入先家庭の情報について、クラウドデータベースを構築し、運営側で共有することにより、安全かつ効率的に運営し、顧客の満足度向上につなげる。

教育旅行受入実績



(出典) 協議会への聴き取り

＜(株) J-roots＞

- 空き家改修の資金を外部資金（クラウドファンディングや融資等）により調達。
- 「顧客の獲得・消費拡大・地域認知度向上」を最大の目的として運営。
- 単事業として初年度より黒字経営を達成。

紀の里農業協同組合

(事例⑩：JAグループによる農泊推進)

〔和歌山県紀の川市〕

- JAによる農家民宿の取組農家拡大に向けた研修の実施や、JAグループ全体で農泊をビジネスとして推進するための研究会を立ち上げるなど、JAが中核組織として農泊を推進。
- JA紀の里ファーマーズマーケット「めっけもん広場」を都市農村交流の拠点施設と位置付け、JA内に体験農業部会を組織。販売事業だけでなく、農作業体験、加工体験等の体験交流事業を展開。

【地域の概要】

和歌山県紀の川市



＜地域の特徴＞

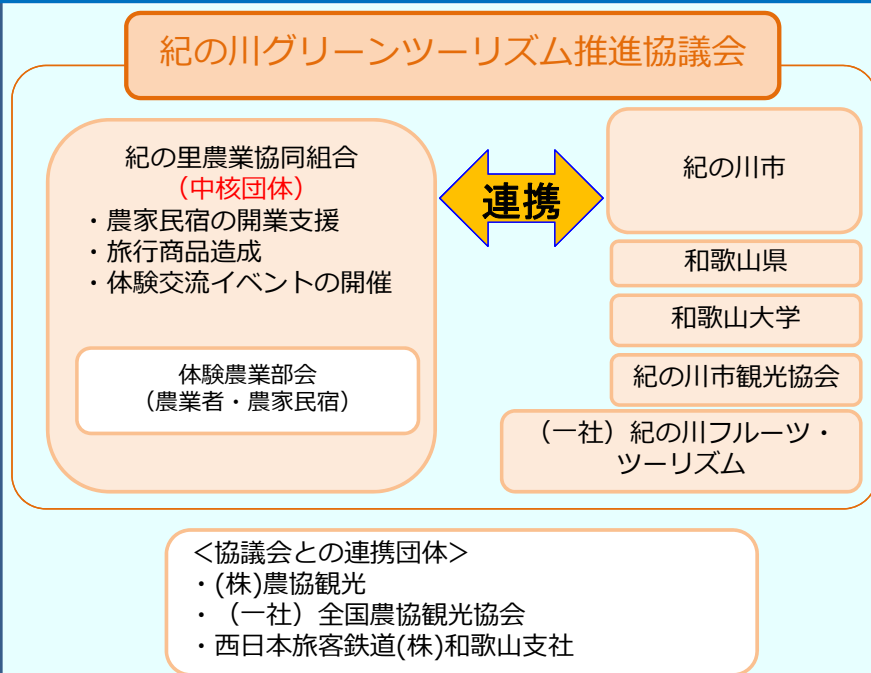
- 農業を維持していくための手法として、都市近郊の好立地や食と農を中心とした地域資源を活用し、農泊を推進。
- 都市近郊で日帰り旅行者が多く、地域に宿泊施設が少ないため、農家民宿の受入拡大が課題。



あら川の桃

【実施体制】

紀の川グリーンツーリズム推進協議会



＜地域連携＞

- 地域と連携を強めるため、JAが中核団体となり、紀の川市、関係団体等で「紀の川グリーンツーリズム推進協議会」を設立。
- JAが中心となり、「都市と農村の交流拠点構想」を策定し、農産物直売所「めっけもん広場」を都市と農村の交流拠点と位置付け。JA内に体験農業部会を組織し、食と農をキーワードに観光振興と地域の活性化に取り組む。



めっけもん広場

【取組内容】

＜特徴的な取組＞

- JAが農家民宿の取組農家の拡大に向け、組合員の農家を対象に、農家民宿での旅行客受入時のリスクマネジメントの研修を実施。農家民宿でのリスクや課題を抽出し、取組農家の技能を向上。
- 訪日外国人旅行者の更なる増加を目的に全国のJAの先駆けとして「めっけもん広場」をH27年6月に免税店とし、加工品を主な対応商品に販売。



農家民宿研修会



直売所の免税店化

＜JAグループの取組＞

- JAが地域の中核組織として、農泊を推進するため、JAが果たす役割や実務について検討する「JAグループ農泊の推進研究会」をH29年8月に立ち上げ。JA紀の里が農泊の先進地として研究会に参加。

JAグループ農泊の推進研究会 (構成員)

- ・JA紀の里、・JAきみつ
- ・JAいわて花巻
- ・農林中金総合研究所
- ・全国農協観光協会
- ・JA全中、・農協観光

＜地域全体の取組：地域DMOの設立＞

- 紀の川市が国の地方創生推進交付金を活用し、地域住民と共に内装、外構ベンチ、体験テーブル等をワークショップにより手作りし、市民と観光客との交流等を促進する拠点施設をH30年9月開業。同年10月に同施設内に地域DMOを設立。

(一社)紀の川フルーツ観光局 (構成員) (DMO登録申請中)

- ・紀の川市、・JA紀の里、
- ・紀の川市商工会、・那珂町商工会
- ・紀の川市観光協会、・道の駅青州の里
- ・(一社)紀の川フルーツ・ツーリズム
- ・JR西日本、・和歌山電鐵、・近畿大学
- ・(株)近畿日本ツーリスト



紀の川市観光拠点



地域DMO総会

- 滞在・回遊型観光コンテンツの強化を図るため、秋穂地区の八十八か所お遍路や車えび狩りなど既存の資源を活かしたプログラム整備をし、宿泊者数の増加を推進。
- 山口県立大学との連携により、八十八ヶ所霊場の文化やお接待料理を学ぶ日帰りツアーを企画し、さらに、事業構想大学院大学との連携により、ランナーズビレッジの事業化を実施。

【地域の概要】



＜地域の特徴＞

- 車えび養殖の発祥の地。
- 230年以上続く「秋穂八十八ヶ所霊場」の札所を有する。
- 高齢化や人口減により、札所の維持が困難になりつつある。



遍明院



岩屋山地蔵院

【実施体制】



＜協議会設立の経緯＞

- 地域で守ってきたお遍路を構成する札所の維持が、高齢化や人口減により困難である一方、山口観光コンベンション協会秋穂支部の活動資金だけでは対応できない状況にあった。
- 地域おこし協力隊の一人が、御大師参り(地域の人達が札所を回る参拝者をもてなす行事)に感銘を受け、この文化を守っていくことを山口県立大学と連携し地域の人達に働きかけ。
- これを受け、山口観光コンベンション協会秋穂支部を中心として地域の歴史的文化を守るために農泊事業の取組に着手。

＜運営体制＞

- 行政や地域の漁業者のほか、秋穂八十八ヶ所霊場を創設した遍明院からも住職が参画し、地域一体となって事業を推進。山口県立大学との連携により日帰りツアーを企画する。
- さらに、事業構想大学院大学と連携しランナーズビレッジの事業化を実施。



勉強会

【取組内容】

＜宿泊＞

- 新鮮な車えび料理でもてなす民宿が点在し、主に国民宿舎「あいお荘」(収容人数約100名)にて受入。宿泊施設数を増やすため、民泊セミナーを実施し、農家民泊の増加に取り組む。



あいお荘

＜誘客コンテンツ＞

- 事業構想大学院大学と連携し、ランナーズビレッジ構築に向け、5つのランニングコースの整備に取り組む。ランニングと宿泊をセットにして売り出し、通年での実施を目指す。
- 山口観光コンベンション協会にて、毎年夏、「あいおえび狩り世界大会」を開催。H29の応募総数は5万人を超え、全国各地からのほか、海外からも参加。今後は、本大会を宿泊とセットにして売り出すことを検討中。



ランナーズビレッジ



あいおえび狩り大会

＜特徴的な取組＞

- 山口県立大学と連携し、秋穂八十八ヶ所霊場にて、地域が受け継いできたお接待の料理を学び、味わう日帰りツアーを開発。これまで全2回開催し、今後は通年での開催を目指す。

- 初めてでも安心して御大師参りに参加できるよう、「案内所」を設置するとともに、巡礼グッズ(マップ、お賽銭用小銭等)を整備。



御大師参り



お大師参り案内所

- 地域内の女性が主役となって、地元産の農産物を使った郷土料理を農家民宿や農家レストランで提供するとともに、農家独自で開発した農産加工品を地域へ訪れる旅行者等へ販売。
- 持続可能な地域の実現に向けて、若手人材の育成及び地域コーディネート等を目的に協議会の法人化を行うとともに、泊食分離等を踏まえた地域一体型経営を目指す。

【地域の概要】

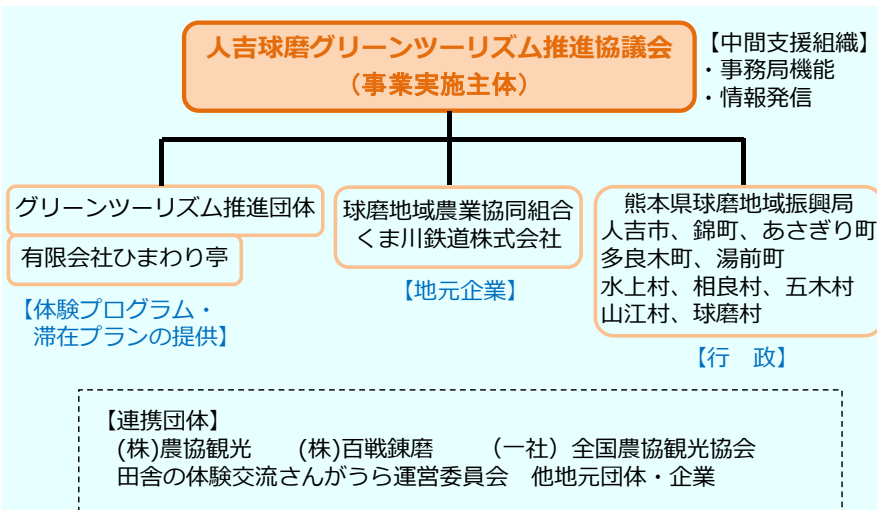


<地域の特徴>

- 相良藩700年の歴史と独特な文化が数多く残ることから、作家の司馬遼太郎に「日本で最も豊かな隠れ里」と称され、日本遺産に認定。
- 熊本市、宮崎市、鹿児島市のほぼ中心部に位置し、人吉市から各都市までは、車で約1時間。



【実施体制】



<協議会の概要>

- 人吉球磨10市町村の広域連携により、地域の豊かな資源を活かしたグリーンツーリズムを推進することで、都市と農山村交流を図り、活力ある持続可能な地域を実現することを目的にH18年に協議会を設立。
- 持続可能な地域の実現に向けて、H31年に一般社団法人化。

<農家の取組体制>

- 地域内の農産物を地域外からの多くの旅行者に知ってもらうため、パッケージの工夫や少量での販売を実施。
- 農家独自で農産物の加工品化に取り組み、積極的に販売。

【農作物販売(直売)事例】

- 合鴨米 600円/kg
- 漆黒米 1,000円/kg
- えごま油 2,000円/105cc



【取組内容】

<宿泊>

- 人吉球磨地域10市町村内で簡易宿所の営業許可を受けている農家民宿19軒で宿泊を受入し、「本物のおもてなし」として、地元産の農産物を使用した郷土料理を提供。
- 主な宿泊者は、個人旅行者であり、H29年の延べ宿泊者数は1,238人泊。



<食を中心とした取組>

- H28年にオープンした「食・農・人総合研究所リュウキンカの郷」を中心に食に関する研修等の事業を展開。
- 心、身体、地域を育む健康的な食事で、都市と農村をつなぐ「命の食」を実践。また、地域住民や農家民宿実践者を対象に定期的に料理・食文化研修を実施。
- JR九州観光列車(SL人吉)で提供する弁当を手掛け、観光と連携。



JR観光列車への弁当提供

<誘客コンテンツ>

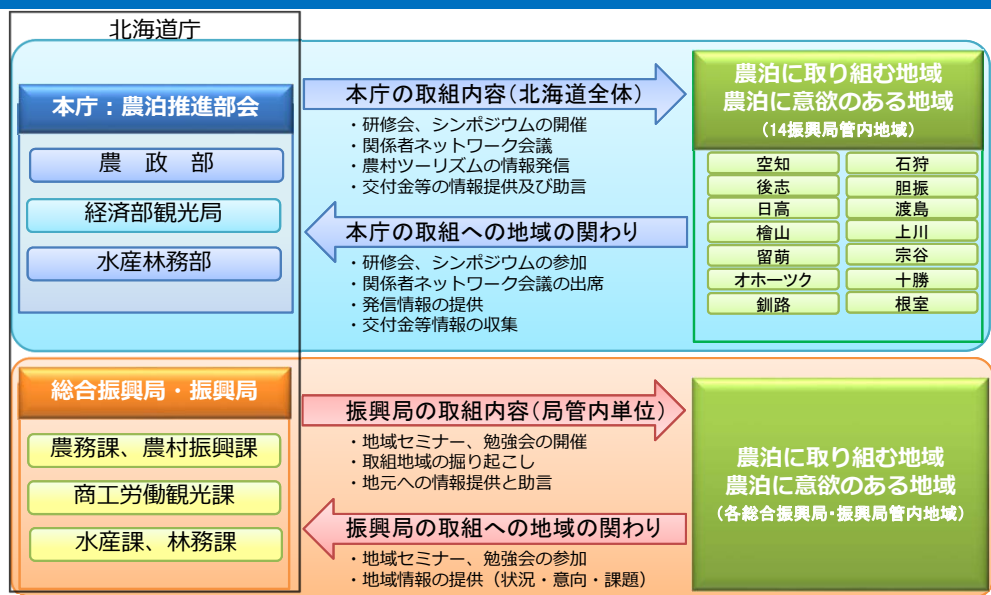
- 日本棚田百選に選ばれた「松谷棚田」や世界かんがい施設遺産の「幸野溝、百太郎溝水路群」を活かしたフットパス等を提供。
- 現在、「相良三十三観音めぐり」、「球磨焼酎蔵めぐり」等、日本遺産を活用した体験プログラムと滞在プランを開発中。
- 有限会社ひまわり亭では、月替わりの郷土料理を提供。



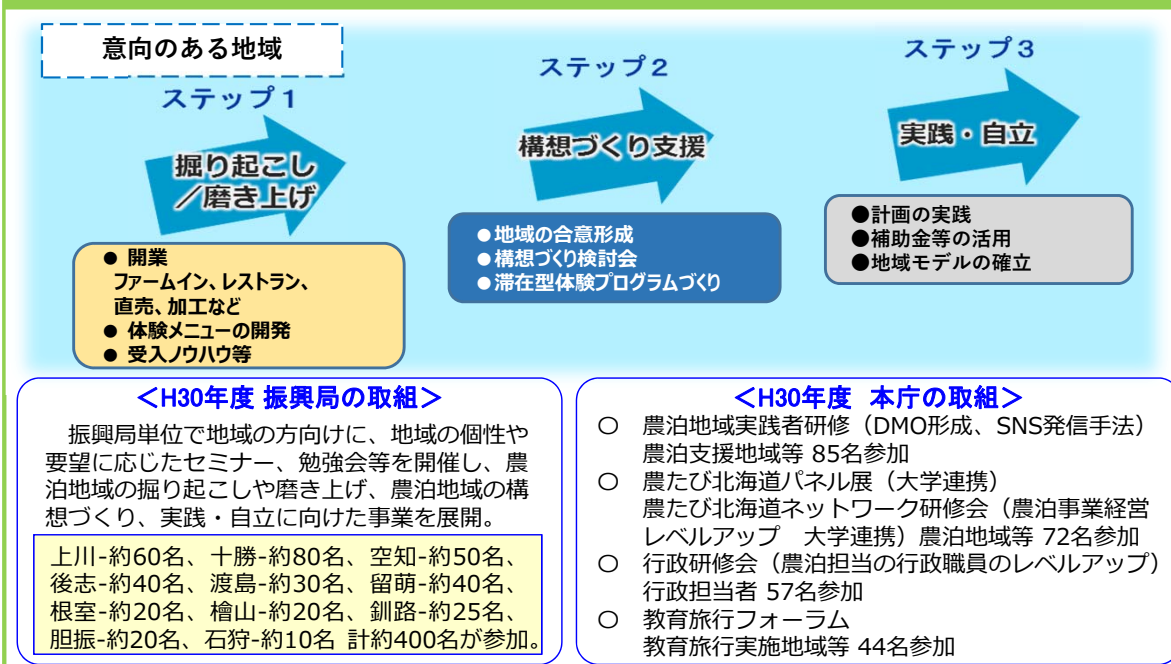
北海道における広域連携『農村ツーリズム』の取組 (事例⑱：広域連携)

- 北海道では、都市と農村の交流を更に拡大するため、農山漁村の豊かな自然や食、歴史・文化、生活体験などを観光資源として活かし、農業や観光業など多様な主体が地域ぐるみで連携する取組を「農村ツーリズム」として推進。
- 「農村ツーリズム」の取組を全道に普及するため、「農たび・北海道」という親しみやすい愛称・ロゴマークを掲げ、農村ツーリズムに関する様々な情報をFacebookなどにより発信。

【実施体制（北海道）】



地域がうるおう農村ツーリズム展開事業（実施期間 H29～H31）



【北海道庁による地域への支援内容】

<地域がうるおう農村ツーリズム展開事業（道事業）> H29～31

- ・ 地方振興局単位でのセミナー・勉強会等の開催による取組への意識の醸成。
- ・ 地域ぐるみの受入体制整備段階からの構想づくりに道も参加。
- ・ 国の農泊推進に係る交付金または制度に関する情報提供、助言。
- ・ 道内の活動実践者同士のネットワークづくり、先進事例紹介。
- ・ Facebookによる情報発信、プロモーション等。

※農たび北海道Facebook (<https://www.facebook.com/nousontourism>)

<農村ツーリズム育成支援事業（道事業）> H30

- ・ 地域の多様な滞在コンテンツや運営を担う人材の育成を支援。

【ロゴマークによるPRや大学との連携事業】

統一シンボルにより観光客の受け入れに意欲を有する北海道の農山漁村のブランド化を図るとともに、農泊の取組を推進。国内だけではなく、外国人旅行客にも分かりやすいロゴにより、北海道の農村ツーリズムを普及。

札幌大谷大学の学生作品が農村ツーリズムのロゴに選定され、ポスター制作やセミナーの開催など大学と連携した取組を実施。



大学との連携によるセミナーやポスター制作

九州ツーリズム・コンソーシアム『ムラたび九州』の取組 (事例②：広域連携)

- グリーン・ツーリズムを実践する九州各県のトップリーダーが、農山漁村を基盤としたコミュニティビジネスの創出と、地域活性化を担う人材を育成する組織として、H28年に「ムラたび九州」を設立。
- 九州全域の農泊に取り組む地域とのネットワークの構築とマーケティングに基づく地域経営体の強化を目指す。

【設立の目的】

満足度の高い農山漁村ツーリズムを提供する事業者と事業エリアの育成、**九州全域をフィールドとした農山漁村ツーリズムの戦略形成と実践力強化**を中間支援として組織的に行う。

<主な事業>

- ムラたびカレッジの開催
- 農泊推進事業サポート
- 海外プロモーション、商談会企画
- 情報プラットフォームの管理

【実施体制】

<会長>

本田 節 (有)郷土の家庭料理ひまわり亭 代表取締役
「郷土料理伝承塾」主宰
「食・農・人総合研究所 リュウキンカの郷」主宰

<副会長>

飯干 淳志 (株)高千穂ムラたび 代表取締役
高千穂ムラたび協議会 会長
高千穂観光協会 理事

藤瀬 吉徳 農家民宿 具座

養父 信夫 一般社団法人九州のムラ 代表理事
総務省 地域力創造アドバイザー
内閣官房 地域活性化伝道師

<理事> 7名

【組織構成メンバー】

○農泊に取り組む九州各県・分野のトップリーダー

- ①農泊、②農家レストラン、③6次産業家、④自然学校・NPO、⑤農業生産法人 ⑥社会起業家

○連携組織・人材

- ①旅行事業・著作・出版・メディア事業者等
- ②法制（弁護士、司法書士）、金融機関
- ③協議会等の運営経験者
- ④ツーリズム行政キャリアOB

○インバウンド定着のためのプロモート人材

- ①海外に活動拠点・実績をもつツーリズム精通者

【中間組織としてのプラットフォーム機能】

<事業・会員支援：地域内の関連事業支援>

- ①観光団体、旅行会社、メディア、海外等への窓口
- ②プロモーション（九州エリア情報の国内外PR）
- ③コンサルティング（事業者・事務局資質の向上、人材育成）
- ④コーディネート（広域連携プラン・事業モデル・事業体発掘）
- ⑤サービスマネジメント（施設・物販・サービスの品質保証）

<間接的事業サポート>

- ①九州全域のツーリズム戦略形成・事業化の推進
- ②マーケティング（顧客ニーズ、地域コンテンツの磨き上げ）
- ③情報インフラ整備（ポータル、情報管理インフラ）

<事業機能>

- ①事業受託（新たな実践地域の育成、実践体制の充実支援）
- ②自主事業（会員情報・エリア情報等の情報発信、物産販売）

【活動実績】

<平成29年度>

- ①ムラたび九州カレッジの開催（キックオフ+3回）
 - 農泊の実践的な取組を学ぶ場の提供
 - 地域の課題に応じ、構成メンバーを現地へ派遣
- ②農政局や県等との意見交換



H29ムラたび九州カレッジ

<平成30年度>

- ①ムラたびJapanカレッジ2018の開催（12回）
- ②交付金団体等への出張講座の実施
- ③地方公共団体の主催の研修会へのアドバイザー派遣



H30ムラたびJapanカレッジ2018

【持続的運営のための段階的整備】

- 草創期（3年）：農山漁村振興交付金事業等による創業支援
- 自立期（2年）：自主事業、会員獲得による事業継続環境整備